

2017年1月1日
53号

かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社製作所ひたちなか総合病院
〒312-0057
ひたちなか市石川町20番1
TEL 029(354)5111
発行人 飯嶋和秀
編集 広報委員会
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>

【ひたちなか総合病院理念】

「地域を護る病院」として説明責任を基本とした最新の技術とサービスを提供し患者さんが納得・満足される医療を遂行する

【ひたちなか総合病院基本方針】

「地域の皆さまの信頼と満足が私たちの生きがいです」のもとに、①急性期から回復期までの一貫した医療を充実させて地域完結型医療を推進する②教育・研修を充実させて最新の医療技術を確認し、職員満足を向上する③説明責任と最良のサービスを遂行し、患者満足を向上する④質を基盤とした総合的医療の質経営を実施し、持続成長可能な病院にする を実践する。

【2016年度品質目標】

・地域医療構想・地域包括ケアシステムを検討・準備・実行する・マスタープランを含めた中期計画（2016～2018年度）を作成する・真因を極めPDCAを回すことを職員の業務の基本とする・医療安全対策の充実に基づく安全風土の醸成を図る・院内全体の問題とした各部署・分野の教育・研修態勢を確立する・データ管理に基づく質・安全・経営態勢を構築する・緩和ケアを含めたがん診療連携拠点病院機能を充実する・退院支援を含めた地域医療支援病院機能を充実する・財務諸表管理を含めた持続成長可能な病院運営する

新年のご挨拶

院長 永井庸次



新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては清々しい新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

昨年の世界の出来事を思い起こしてみますと、Brexitや米国の大統領選等を含めまして、世の中が大きく変化しようとしていると思われてなりません。我が国の医療の世界もまさにそれと同じと私は思われます。TPPはもちろんのこと、本誌で度々お話しさせていただいています2017年度からの地域医療構想・地域包括ケアシステム、2018年度からの6年ごとの医療計画、介護保険事業計画、さらには医療・介護報酬同時改定、また新医師専門医制度の導入など、今後の我が国の医療を決定する重要事項が怒涛のごとく予定されています。その中で、いつもしわ寄せは仕組みとマンパワーが弱い地域に振りかかるのが世の常であり、ひたちなか市を含めた常陸太田・ひたちなか二次医療圏においても、高齢化時代を迎えるにあたって、他地域と比較しても格段に、住民、行政、医療機関全てが一丸となって、この状況に対応することが必要です。

当院は2010年6月にリニューアルして以来、急性期・回復期病棟を有する地域の中核病院として、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、災害拠点病院等の機能を開発・維持して参りました。しかし、当地域のような医療過疎地域では、今までは水戸という大病院群を有し医療機能の充実した地域と隣接していた強みが逆に今後弱みとなり、高齢化社会の到来で、この地域の医療環境は大きく様変わりすることが予想されます。水戸も当地域も急性期のベッド数が減少する中で、当地域の急性期のベッド数では今まで以上に高齢者の皆様方を受け入れる余地はありませんので、高齢者の皆様方は今までと同様に水戸の急性期病院に入院・通院し続ける必要が生じます。

しかし、最近の高齢者による交通事故等の報道事例増を例に引くまでもなく、少子高齢化社会であるからこそ、逆に地域に密着した医療環境の構築が望まれる時代です。当院は今後急性期・回復期だけではなく、在宅等を含めた急性期・回復期・慢性期・在宅・介護・福祉の連携体制をますます地域に密着して構築していきたいと考えておりますし、そのためにもICTという医療情報技術の活用など、その仕組み作りに関わっていきたくと考えています。

最後になりますが、この1年間の皆様方のご多幸とご健勝を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

1月		2月		3月		4月	
日	月	火	水	木	金	土	日
①	②	③	④	5	6	⑦	
⑧	⑨	10	11	12	13	⑭	⑮
⑯	20	21	22	23	24	⑳	㉑
㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙
㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲
㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺
㊻	㊼	㊽	㊾	㊿			

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日

2017年1月10日
オープン!

院内助産・産後ケア入院を開設します

院内助産とは、正常妊娠・分娩の経過をたどる妊産婦さんを、助産師が主体となって支え、お産の介助を行う「病院の中にある助産院」のことです。正常な妊娠・出産のケアを助産師が妊婦さん一人ひとりに寄り添い「主体的にお産ができる」心と体づくりをお手伝いします。医療行為が必要なときは院内の産科医と連携し速やかに対応します。私たちは「自分らしいお産」からはじまる育児のスタートを支えます。

〈院内助産を希望される方は以下のことが条件です〉

- 院内助産に本人・家族が同意している
- 逆子（骨盤位）ではない
- ふたご・みつごではない
- 帝王切開をしたことがない
- 合併症がない
- 胎盤の位置に問題がない

※この他状況によりその方に合った病院を紹介することもあります



入院生活について

妊産婦さんの「こんなお産がしたい」を支えます

- 産んだらすぐに赤ちゃんを抱きたい
- 産まれる瞬間を家族で迎えたい（小さなご兄弟もOK）
- フリースタイルの出産がしたい
- アロマや好きな音楽を聴きながらお産がしたい
- 陣痛中にお風呂に入りたい など

主な特徴

分娩室は、畳とベッドを選択することができ、出産直後から赤ちゃんと一緒に過ごせます。全室個室（個室料は無料）となっており、入院期間は産後6日間です（初産・経産問わず）。費用は45万円前後となります。退院後は、電話での育児相談や、助産師がご自宅へ訪問し、お母さんと赤ちゃんの健診を行います。

産後ケア入院・デイケアについて

出産退院後のお母さんは、育児指導は受けたものの、自分の身体を休めながらの育児は経験があっても大変です。「もう少し身体を休めたい」「もう少し指導を受けて育児に自信が持ちたい」など、個々の悩みに対し、身体回復・育児指導など、前向きに育児ができるようサポートします。

サポート内容

- 沐浴、授乳等の育児生活アドバイス
- 母乳ケア
- ハンド・フットマッサージ
- 簡単にできるベビーマッサージ
- ベビースリングの使い方
- 産後リハビリ（理学療法士による）
- パパへの育児アドバイス など



【対象者】 出産後のママと赤ちゃん

（※ひたちなか市の産後ケア事業ご利用の方は、生後3ヶ月未満の乳児とその母親が対象となります）

【料金（税込）】

内 容	事 業 利 用		
	一般世帯	非課税世帯	対象外
日 帰 り（9時～17時 昼食付き）	4,000円	2,000円	29,160円
1泊2日（9時入院～翌17時退院）	11,000円	5,500円	58,320円
以降1泊ごとの追加料金	5,000円	2,500円	29,160円

【院内助産・産後ケアに関するご予約・お問い合わせ】

産婦人科外来 電話番号：029-354-5111(代) 受付時間：平日 8時30分～16時30分（予約制）

健康メモ

咳やくしゃみが出たら「咳エチケット」を！

総合健診センタ 保健師 梅原 沙織
咳エチケットという言葉をご存知でしょうか？この言葉は厚生労働省がインフルエンザの感染拡大を防ぐために呼びかけたものが始まりで、咳やくしゃみをする時に気をつけるべきマナーのことです。

咳やくしゃみのしぶきは2～3m飛ぶと言われています。その飛沫の中にインフルエンザウイルスなどが入っていた場合、周囲にいる人の口や鼻からウイルスは侵入し感染を起こします。周囲の人へうつさない、そして感染を拡大させないために咳エチケットが必要なのです。

〈咳エチケットの内容〉

- *咳・くしゃみの際はティッシュなどで口や鼻を押さえ、他の人から1m以上離れる。
- *マスクがない場合のくしゃみは口と鼻をティッシュでカバーする。

*鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐに蓋付きのゴミ箱に捨てる。手の平で咳やくしゃみをとめたときはすぐに石鹸で丁寧に手洗いをする。

*咳をしている人にマスク着用を促す。咳エチケットは自分だけが気をつけるだけでなく、咳エチケットの事を1人でも多くの人に広める事も咳エチケットになります。エチケットを守り、皆が過ごしやすい環境を作りましょう。

医師異動の紹介

診療科	氏 名	異 動 日
臨床研修医	根 本 絵 美	退職 (2016. 11. 30)
	山 本 隆 平	退職 (2016. 11. 30)
	山 川 大 地	退職 (2016. 12. 31)
	石 井 雄 一 郎	採用 (2017. 1. 4)
	高 向 梨 沙	採用 (2017. 1. 4)